

# たまな発掘速報展

平成15年 11月12日(水) ▶ 12月23日(火)

## ごあいさつ

広大で肥沃な菊池川下流域にある玉名は、縄文時代は貝塚に富み、弥生時代はいち早く稲作の技術や鉄製品がはいってきた地域で、今日に至るまで自然に恵まれたゆたかな文化を築いてきました。

近年では、九州新幹線の新駅が予定され、国道208号線玉名バイパス建設にともない緊急的な文化財発掘調査が行われています。発掘された遺跡は、まさに玉名の歴史の生き証人であり、これから私たちが未来へどのように進んでいくべきか考えるとき、大切な手がかりを与えてくれるものです。祖先から受け継がれた遺跡は、私たちの共有の財産であり、これから後世へと受け継がれていかなければなりません。今日では、やむなく遺跡を壊して工事をしなくてはならない場合、工事に先立って発掘調査を行ない、そして遺跡を写真や図面などで記録して残すようにしています。

今回は、企画展示室において、最近菊池川下流域で発掘調査された各時代の遺跡と出土品を紹介します。あわせてレクチャーホールでは、平成13・14年度に玉名市内のさまざまな開発に伴って行なった埋蔵文化財試掘・確認調査の成果を報告します。

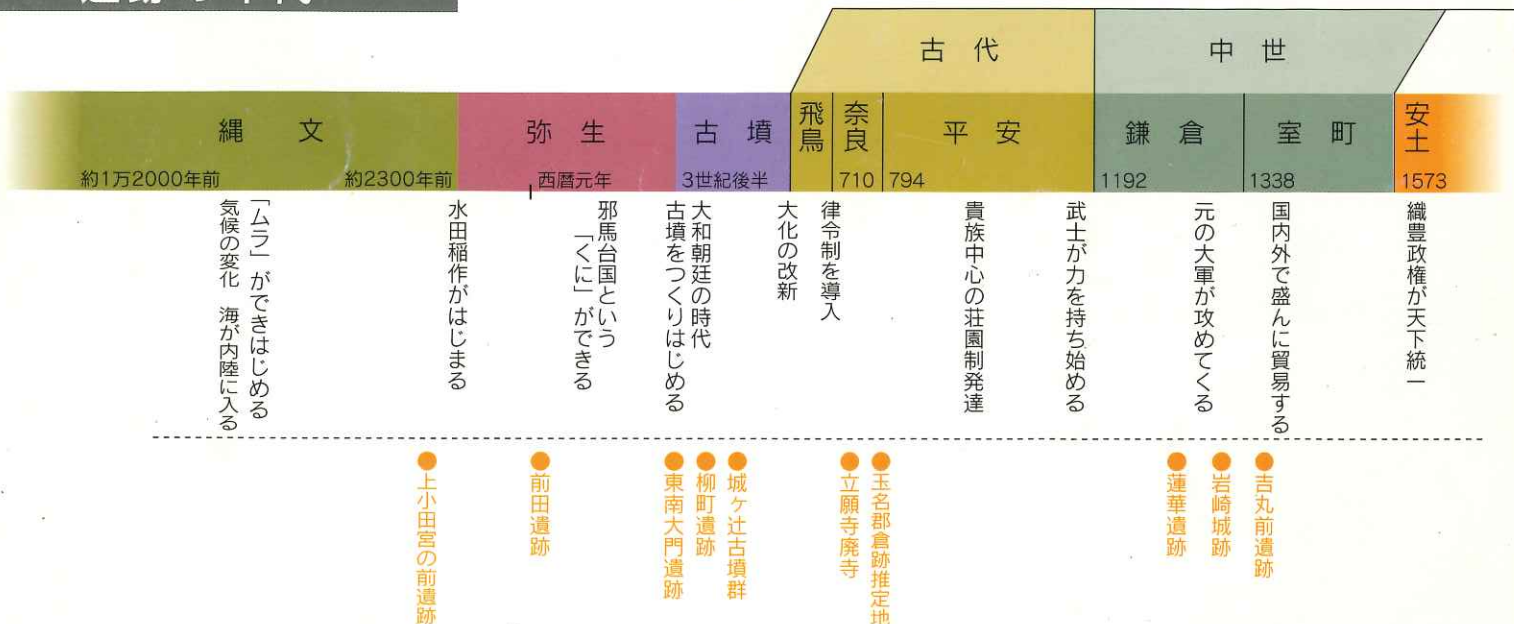
菊池川の恩恵を受けて生きた祖先の暮らしを身近に感じていただければと思います。また、こうした機会をとおして、文化財の保護に一層のご理解を深めていただければ幸いです。

最後になりましたが、開催にあたり貴重な資料の提供をいただきました熊本県教育委員会およびご指導ご助言を賜りました高谷和生氏をはじめ関係各位に厚くお礼申し上げます。

平成15年11月

玉名市教育委員会社会教育課  
玉名市立歴史博物館こころピア

## 遺跡の年代



※図上の各時代の時間幅は実際の長さとは比例しません。また遺跡名称の位置は、今回紹介しているおよその時代に合わせたものです。

## 縄文時代

約1万2000年前  
～2300年前

縄文時代は、弓矢でイノシシや鹿を獲り、貝や木の実を集めて人びとが暮らしていた時代です。玉名には菊池川という大きな川が流れていること、海に近いことから、縄文時代の中頃には川のそばに多くの貝塚がつくられています。また、貝塚以外では縄文時代のなかでも終わりに近いころの遺跡がいくつかみられます。縄文時代からは土器を使うことによって、食べ物を焼くだけでなく、煮るなど料理することができるようになり、いろいろな木の実を食べられるようになりました。上小田宮の前遺跡では当時の人々が集めていたドングリがたくさん見つかっています。

### 上小田宮の前遺跡 (玉名市上小田)

菊池川左岸の水田地帯にあります。縄文時代後晩期から中世にかけての生活のあとが発見されました。水田の真下2mのところにあった縄文時代の自然流路からは県内最古の弓、溝のある砥石、頭や手足が欠かれた土偶、ドングリを煮て焼き付いた土器などが出土しています。玉名平野において縄文時代の人びとの生活した様子が復元できる点が注目されます。



縄文時代の弓(左上)



頭や手足が欠かれた土偶



遺跡遠景(東より)

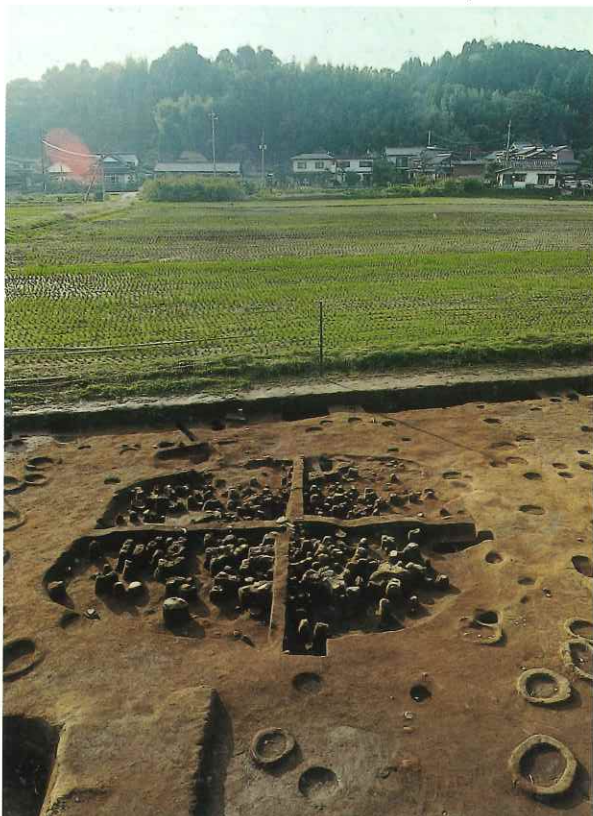
## 弥生時代

紀元前3世紀後半  
～紀元後3世紀後半

弥生時代は、本格的に稲作がはじめられた時代で、有名な吉野ヶ里遺跡のように大きな「ムラ」もつくられはじめました。玉名でも何軒もの家々が集まった「ムラ」や墓地在りていました。「ムラ」では村びとの共同作業をとおして仕事の役割分担がすすみ、身分の差も生まれました。身分の差はお墓の形や大きさ、お供え物の違いにあらわれています。前田遺跡や東南大門遺跡では、当時の人々の家やお墓などが多数見つかっています。玉名の弥生時代は北部九州地方との交流が盛んで、「甕棺」という大きな土器を棺桶にするお墓のスタイルが共通していました。また土器の形も似ていました。前田遺跡で出土した「丹塗りの筒形器台」はそれを裏付けるものです。

### 前田遺跡 (玉名市月田)

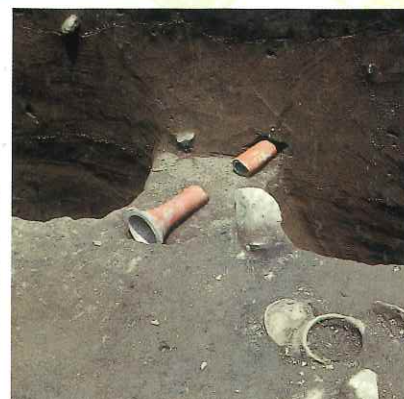
菊池川下流の右岸自然堤防上にあります。弥生時代中期から後期にかけての竪穴住居跡が約60基確認されています。住居跡からは炭化したコメや稲を刈り取る道具である石包丁が出土しました。また周辺の土を分析したところ稲のプラントオパール(植物性のガラス質微化石)が多く含まれていることがわかりました。当時は稲作を中心とした集落が形成されていたものと思われます。また、朝鮮半島からもたらされたと考えられる板状鉄斧、石戈の転用品、北部九州地方の影響を受けた丹塗りの筒形器台、お祭りに使われたミニチュアの土器なども出土しており、川辺での生活と祭りの様子がうかがえます。



弥生時代の竪穴住居の跡(東から)



2基の甕棺が出土



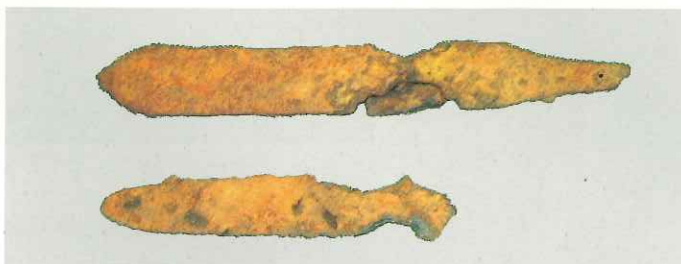
筒形器台出土の様子



石戈の転用品が出土

ひがしなん だいもん  
**東南大門遺跡 (玉名市築地)**

玉名市の西部、境川右岸の段丘上にあります。ここからは、弥生時代中期の墓地として使用された甕棺墓群と弥生時代の終末期から古墳時代前期にかけての遺構や遺物が見つかりました。弥生時代の中期の甕棺は全部で43基確認されており、その内の2基の甕棺内から石剣およびその先端部が見つかりました。また、別の甕棺の横から、鉄剣が2本出土しており、副葬品の可能性も考えられます。弥生時代終末期から古墳時代の前期にかけては木棺墓2基、大型の溝2本が確認されています。これらは墳丘墓の可能性が考えられます。その他にも、石棺墓や大型の土坑も見つかりました。



出土した鉄剣



甕棺内出土「磨製石剣」



甕棺墓の様子

# 古墳時代

3世紀後半  
～7世紀

3世紀から7世紀にかけては、土を盛り上げてつくる巨大なお墓である古墳が盛んにつくられた時代です。菊池川の下流域には優れた内容の古墳が多く、銀象嵌の太刀で有名な江田船山古墳（菊水町江田）や、装飾古墳として知られる大坊古墳や永安寺東・西古墳（玉名市玉名）があり、石貫穴観音横穴や石貫ナギノ横穴群（玉名市石貫）とともに、いずれも国指定史跡となっています。

発掘調査が行われた城ヶ辻古墳群では、新たに2基の古墳が発掘され、4世紀から6世紀まで連続と続く古墳群であることがわかりました。東南大門遺跡では、古墳時代のはじめにつくられたお墓が見つかり、周りの溝から多量の土器が出土しています。

当時の人々の暮らした集落は、柳町遺跡や蓮華遺跡で確認されているほか、菊の尾遺跡（玉名市築地）や立願寺廃寺でも住居の跡がみつかります。

## 柳町遺跡（玉名市河崎）

菊池川下流の右岸、玉名平野ほぼ中央部の水田地帯にあります。縄文時代後晩期から平安時代にかけての遺跡であることがわかりました。その中で確認された遺構や遺物が最も多い時期は、古墳時代の前期頃です。この時代の中心となるのが集落跡です。集落跡からは、住居跡や井戸などがみつっていますが、井戸跡から木製の短甲や道具、建物の部材、多量の土器が出土しており、これらは井戸にまつわるお祀りを行なった跡ではないかと思われます。

集落周辺の湿地では、土の分析の結果、稲の花粉が多く含まれていることがわかり、そこで稲の栽培が行なわれていたと考えられます。また、小さな川の跡もみつかり、その中から土器や木製の農具などが出土しています。その川の畔では部分的にお祀りに使ったと思われる土器も出土しています。



土器出土の様子



流路からたくさん出土した木製品



井戸跡から出土した木製短甲

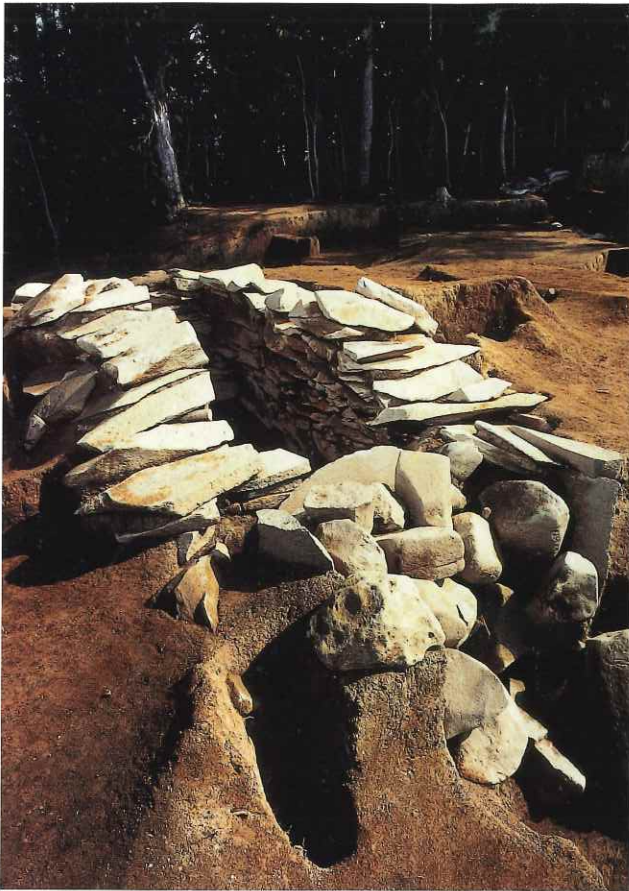


割られた青銅鏡の一部(鈕部)

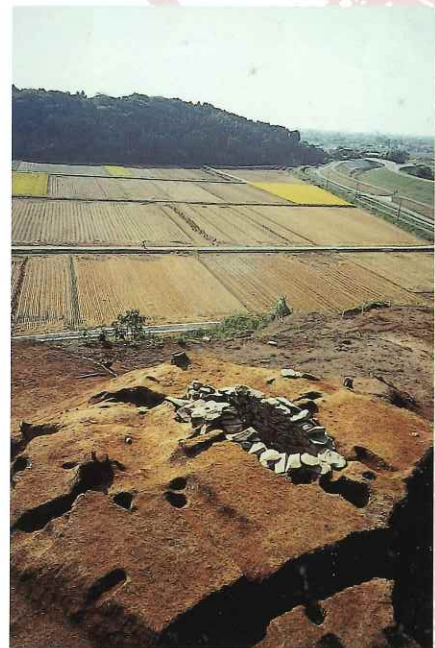
しろがつじこふんぐん  
**城ヶ辻古墳群 (玉名市寺田)**

北西に菊池川を望む、見晴らしの良い丘陵<sup>きゅうりょう</sup>の先端に位置する古墳群です。これまで5基の古墳が確認されていましたが、発掘調査により新たに2基の円墳<sup>えんふん</sup>が発見され、4世紀に造られた2号墳から、6世紀の6号墳・7号墳にいたるまでの長い間、連綿と続く古墳群であるとみられています。これほど長期間続く古墳群は、あまり確認されていません。

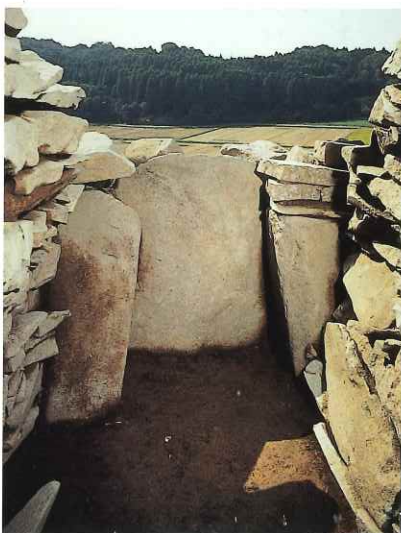
新たに発見された6号墳は、熊本県地域の特色をもつ横穴式石室<sup>よこあなしきせきしつ</sup>の跡が確認されました。これに対し7号墳の石室は、北部九州に多い「<sup>たてあなけいよこぐちしきせきしつ</sup>縦穴系横口式石室」と呼ばれる石室です。県内では例が少なく、北部九州との深いつながりが認められます。また6号墳からは、金製の垂飾付耳飾<sup>すいしよくつきみみかざり</sup>の一部が出土しています。垂飾付耳飾は、県内では菊水町の船山古墳のほか、玉名市の大坊古墳、伝左山古墳、竜北町の物見櫓古墳しか出土例がありません。玉名市周辺に集中しており、この地域と朝鮮半島との交流も考えられます。



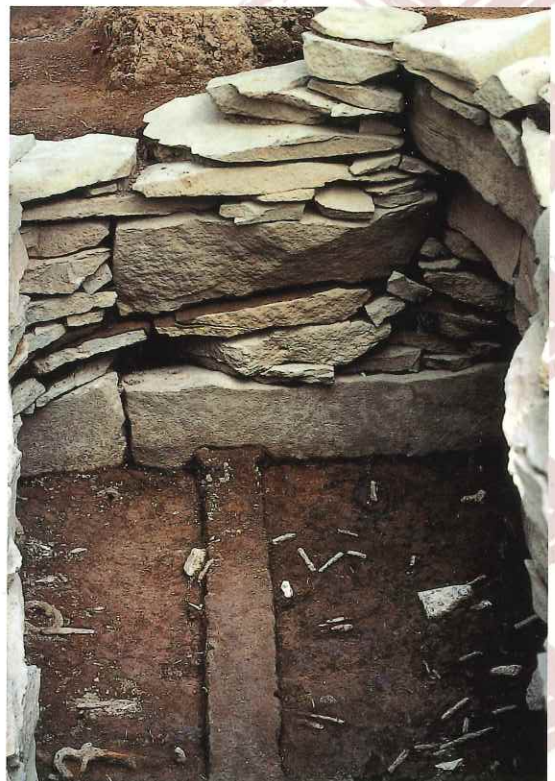
扁平な割石を積み上げた7号墳の石室



墳丘と石室の様子



石室内から見た「閉塞石」<sup>へいそくせき</sup>



石室内の遺物出土の様子

# 古代

7世紀～12世紀

飛鳥時代から奈良時代にかけて、律令と呼ばれる法律により国を治める仕組みが整いました。平安時代にいたるこの時代を総称して、古代とよんでいます。

現在の玉名市立願寺の一角には、古代玉名郡の役所が置かれていたと考えられています。昭和20年代から発掘調査が行なわれ、役所である郡家跡、税である米を納めていた郡倉跡などの存在が推定されています。また立願寺廃寺は郡の寺であると考えられています。台地上に寺院の堂塔や倉庫群が立ち並ぶ姿は、壮大なものであったことでしょう。

立願寺の西側に位置する高岡原遺跡（玉名市山田）は、近年の発掘調査で古代の硯などが出土しており、当時の役人たちが住んでいた可能性があります。柳町遺跡でも、古代の役人が腰に付けていた銚帯とよばれる帯の飾りが出土しています。しかし、住居の跡などは見つかっておらず、今後の調査が期待されます。

## 立願寺廃寺（玉名市立願寺）

昭和29年の発掘調査で礎石が確認されており、瓦の散布状況などから、法起寺式とよばれる建物の配置（伽藍配置）をもつ寺院跡と推定されています。大字立願寺にあることから「立願寺廃寺」と名付けられました。平成2年の発掘調査では、礎石建物や掘立柱建物などが確認されています。近年では宅地化が進んでおり、平成12年に4件の確認調査、平成13年度には道路工事に伴う発掘調査を行なっています。その際に、寺院の建物跡と見られる柱穴が確認されているほか、丁寧な加工を施した礎石や大量の瓦、土器、硯なども出土しています。鬼面文の軒丸瓦は、たいへん珍しいものです。



調査の様子



廃棄された礎石

## 玉名郡倉跡推定地（玉名市立願寺）

疋野神社北側の台地上にあり、一部が玉名市の指定史跡になっています。昭和31年の発掘調査で、柱の土台である礎石群が見つかり、炭化した米が出土することなどから、郡倉跡と推定されています。平成4年の調査では、礎石を使った建物より前の時期の掘立柱建物が確認されています。平成12・14年には、平成4年に調査を行なった地点の隣接地を調査し、規則的に並んだ建物跡を確認しています。見つかった柱穴は、直径が1mから1.5mもある立派なもので、柱穴の配置からいずれも米倉と考えられます。



規則的に並んだ柱穴

# 中世

12世紀～16世紀

中世は、新しく誕生した武家政権が、大小の戦いによって支配力を強めた時代です。いわゆる「武士」が時代の主役を担っていました。それぞれの地域で勢力をもっていた武士は、館を構え、城を築き、ときには自らの権利を守るため、対抗する勢力と戦ったりもしました。また、神社や寺もそれぞれ大きな力を持っており、人々の生活の中に深く浸透していました。玉名地方では、最近では中世城館の発掘調査が多くなっています。城といえば、立派な天守閣や石垣などが築かれたものを想像しますが、中世の城館は、土塁や堀を巡らしたり、小高い丘を利用して築かれたもので、玉名地方に限らず日本全国無数に存在します。発掘調査を行なった遺跡は、伊倉城跡（玉名市片諏訪）、岩崎城跡、吉丸前遺跡などがあります。

## 蓮華遺跡（玉名市築地）

現在の蓮華院誕生寺を中心とした範囲の遺跡です。蓮華院誕生寺は昭和4年に再興されたものですが、鎌倉時代中頃に建てられた蓮華院浄光寺という真言律宗の寺があったとされています。寺域は南北300m、東西200mにもおよび、当時の玉名地方でも有数の寺だったといわれていますが、戦国時代に焼失してしまったようです。

これまで数回発掘調査が行なわれてきましたが、平成11年度から12年度にかけての調査で、溝状遺構や土坑墓などが見つかり、寺に関連するものの可能性があります。



出土遺物（青磁碗・土師皿・瓦器碗）



堀および土塁のあと

## 岩崎城跡（玉名市岩崎）

台地上にあり、鎌倉時代から室町時代のもので、伝説では、城主が岩崎氏であったといわれています。岩崎氏については、鎌倉時代後期、中国大陸の元が九州に攻めてきた元寇の際に玉名地方から参加した武士の中に「大野岩崎太郎」の名前があり、そのときの功績により恩賞を受けたことが記録されています。

現在の岩崎城跡は、宅地になって家が建ち並んでおり、城の面影はほとんど残っていませんが、発掘調査によって城の周りを囲んでいた二重の堀と土塁が確認されました。この地点は、城の最も西側の部分だったようです。

## 吉丸前遺跡（玉名市寺田）

菊池川左岸の台地上にある室町時代に掘られた空堀があります。ここでは、南北270m、東西150mの大きな「日」の字形をした空堀があったようです。鎌倉時代から室町時代にかけては、全国各地に堀で守られた城館がたくさんつくられており、この遺跡の空堀も有力者の城を取り囲んでいたものかもしれません。堀の中からは、食器の碗、貯蔵用の甕、調理具のすり鉢、釜などの生活道具が出土しています。また、堀の近くではお墓（土葬）が2基見つかりました。お墓には小皿と杯が納められていました。



お墓の様子



調査の様子（空堀）

# 遺跡分布図



## ■紹介した遺跡の一覧

遺跡名	所在地	主な時代	遺跡の種類
① 上小田宮の前遺跡	玉名市上小田	縄文～古代	集落跡
② 前田遺跡	玉名市月田	弥生・中世	集落跡
③ 東南大門遺跡	玉名市築地	弥生～古墳	甕棺墓群等
④ 柳町遺跡	玉名市河崎	弥生～古墳	集落跡
⑤ 城ヶ辻古墳群	玉名市寺田	弥生～古墳	古墳
⑥ 立願寺廃寺	玉名市立願寺	古代	寺院跡
⑦ 玉名郡倉跡推定地	玉名市立願寺	古代	郡倉跡
⑧ 蓮華遺跡	玉名市築地	弥生～中世	寺院跡・集落跡
⑨ 岩崎城跡	玉名市岩崎	弥生・中世	城館跡
⑩ 吉丸前遺跡	玉名市寺田	縄文・古代～中世	城館跡

### 講演会 (聴講無料)

11月22日(土) 午後2時

#### 『柳町遺跡に見る里山の風景』

～最近発掘された菊池川下流域の  
各時代の遺跡の紹介をとおして～

講師 高谷 和生 氏

(肥後考古学会幹事・日本考古学協会協会員)

場所 博物館レクチャーホール

### 史跡探訪

11月30日(日) 午前10時

#### 『掘りたての遺跡を訪ねる』

探訪先 城ヶ辻古墳群・寺田山口遺跡・  
吉丸前遺跡

集合場所 玉名石材センターの208号線向かい側  
(玉名市寺田吉丸)

参加費 100円



## 玉名市立歴史博物館

〒865-0016 熊本県玉名市岩崎117

TEL0968(74)3989・FAX(74)3986

URL <http://www.city.tamana.kumamoto.jp/>

[公共施設からお進み下さい]

※紹介遺跡の上小田宮の前遺跡・前田遺跡・城ヶ辻古墳群の写真は、  
熊本県教育委員会および熊本県立装飾古墳館の提供です。